

幾多の困難に打ち勝った記念

熊本県錦町の^{たかんぼる}高原開拓は、県南部に位置し、標高 150～200mの台地にある。

日本三大急流の一つである球磨川が東西に流れており、朝晩の寒暖差が大きく、よく霧が発生する。

46 年に 80 戸が入植し、当初は寺の御堂に分宿していた。国有林の伐採に従事したが、集材したものが山火事に遭い、賃金をもらえないこともあった。

49 年には大干ばつで、陸稲は全滅。51 年には^{ひょうがい}雹害でサトイモやスイカ等も全滅。その他、2 年連続の台風災害で、住宅の全半壊 35 戸と、非常に多くの困難に立ち向かわなければならなかった。

土質は酸性の火山灰土で、稲作には向いておらず、サトイモや甘藷の栽培が行われるようになった。

50 年から茶苗の植栽を始めたが、55 年頃から茶の価格が低迷したため、茶樹を抜いてしまい、60 年に再び茶苗を植栽するなど、一進一退の営農が続いた。今は緑の茶畑が広がっている。

65 年頃からモモ、メロンなど果樹の産地形成ができた。また、69 年には高原開拓農協の敷地に、熊本県開拓農協連球磨支所と倉庫が開設された。

70 年頃から一部の農家が開拓牛肥育に取り組むようになった。

74 年に球磨地域の開拓農協が合併し、球磨開拓農協が発足した。

85 年、農協敷地内に入植 40 周年の開拓記念碑が建てられた。当時の思いが伝わるよう、大きく堂々とした碑となっている。

現在も、広大な茶畑が広がり、肉牛肥育農家も頑張っている。

高原（たかんばる） 4 3 - 5 0 1 - 2

- ①調 査 日 平成 29 年 5 月 23 日
②所 在 球磨郡錦町大字木上東
③地 区 の 沿 革 檜、松の国有林に昭和 21 年 80 戸が入植した。
④設 置 年 月 日 昭和 60 年 12 月 1 日
⑤設 置 者 入植者
⑥碑 文（表 面） 開拓碑

錦町長 松田 栄 書

大東亜戦争終結により、国の定めた緊急開拓法に基づいてこの地に入植、開拓事業に参加、山野を開墾、開畑して現在の地区形成をなし遂げた。この偉業を入植四十周年に当り開拓碑を建立し、後世に伝えるものである。

入植 昭和二十一年八月十五日

開拓面積 一六〇ヘクタール

昭和六十年一二月一日建立

- ⑦碑 文（裏 面） 昭和二十一年八月入植
⑧現 在 の 状 況 県道 324 号線沿いの当地区内で管理されている。